

11月定例会（企画：株式会社YAMAGIWA）

◆日時：2019年：11月14日（木） 15：00－17：00

◆場所：yamagiwa tokyo 東京ショールーム

東京都港区南青山 2-27-25 オリックス南青山ビル9階

◆プログラム

15:00～15:05

オープニング 知的オフィス環境推進協議会 会長 三木光範

15：05～15：10

今回の企画について 株式会社YAMAGIWA 取締役 遠藤充彦

15：10～16：30

空間に『感性デザイン』と『自然要素（音）』を取入れる。

株式会社JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント

エンタテインメント・ラボ長 榎本誠也

16：30～16：50

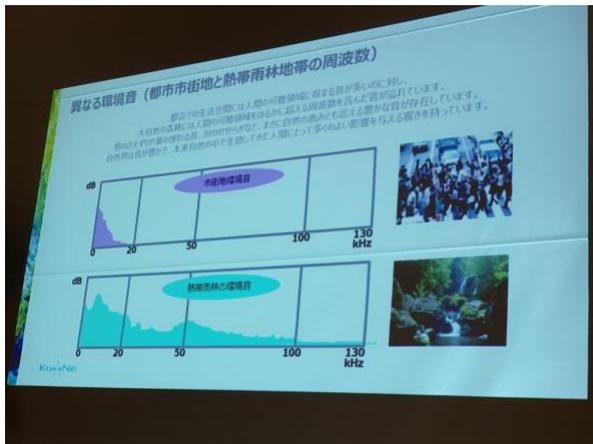
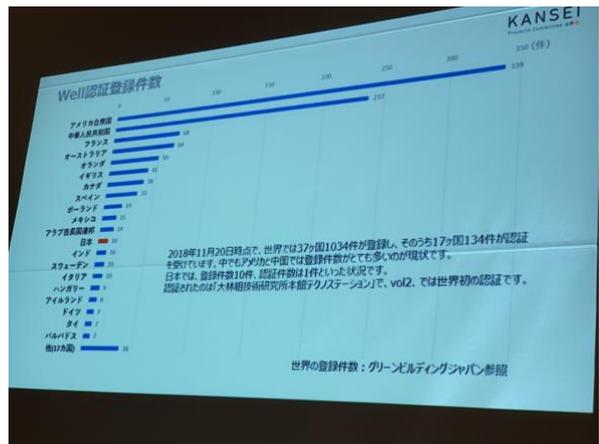
質疑・応答

16：50～17：00

クロージング 知的オフィス環境推進協議会 会長 三木光範

◆当日の写真





パフォーマンスを向上する空間創造

好きな時間や場所で働き・学びリフレッシュする、より個人のパフォーマンスが重要視される時代

従来の空間づくり + 感性デザインによりリフレッシュやパフォーマンスを高める





◆開催関係者への礼状

ビクターエンタテインメント

榎本誠也様、木野佳子様

株式会社 JVC ケンウッド・公共産業システム

上村忠明様

株式会社 YAMAGIWA

遠藤充彦様、中山国久様

写：知的オフィス環境推進協議会運営委員

同志社大学理工学部 三木です。

本日は榎本様には、大変貴重なお話をいただき、有り難うございました。

自然を空間に取り入れるバイオフィリックデザインの概念、世界の例などをご紹介いただき、GAF A のオフィスが完璧なバイオフィリックデザインで、圧倒されました。バイオフィリックデザインを取り入れることで、働く人の欠勤率が下がり、集中力が上がり、幸福感が増加し、新たなひらめきも生まれやすいという多くの研究結果があることなどを知り、いろいろな欧米の先進的企業の写真を見せていただくと、その有効性を感じることができました。

そしてメインテーマであるバイオフィリックサウンドデザイン、天井からは森の音と鳥の鳴き声、床からは森の音と水の音が聞こえる体感環境を付くっていただき、感動的でした。その音をなくすと堅い、圧迫感がある環境になりました。

特に、都会の騒音のスペクトルと川がある森の中の音など、自然の音のスペクトルの違いには驚きました。市街地環境音では 15kHz ぐらいから上の周波数は非常に少ないのに対して、熱帯雨林の環境音では 130kHz を超えてもまだかなりのスペクトルが存在すること、自然が奏でるこの高い周波数の音が人のストレスを軽減するのだとわかり、ハイレゾ録音機で森の川の音や海の波の音を採取し、それをうまく部屋内で流すことで、人の快適度が大いに上がるのが分かりました。

この音響システムを「クーネ（空音）」と名付けられ、すでにトヨタのレクサスの販売店など、多くの企業が導入していること、また、多くの図書館が導入していることも理解できました。そういえば、三菱地所の 3X3 Lab Future にも導入されていましたし、過日本協議会で見学した JINS の集中オフィスでも水の音を聞きました。

図書館では静かすぎると、足音やドアの音など、少しの騒音でも非常に耳障りになりますが、クーネで森の音が流れれば、快適性が向上するだけでなく、そうした時たま生じる騒音をマスキングする効果もあることが分かり、多くの図書館に導入されていることが理解できました。

今回の研究会での榎本様のお話と、株式会社 YAMAGIWA 東京ショールームにクーネの環境を作っていただき、森の音を体感することができたこと、本当に有益な研究会となりました。榎本様はじめ、株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメントの皆さまには本当に有り難うございました。